

こんにちは。副理事の中山です。

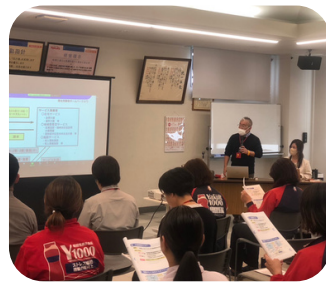
皆さまゴールデンウィークは沖縄のイベントも多く、行き先をどこにしようかと困った方も多かったのではないのでしょうか？私は今年のゴールデンウィークは那覇ハーリーを見に行きました（子供が出演した為）。今まであまり関心のなかったハーリーですが、いざ身内が出るとなると興味が湧くものですね！今回ふと気づきになった事は興味の無い事でも我が事となると真剣になった場面です。皆様もご経験があると思いますが、介護についても同様だと感じています。これからも介護について情報発信ができるよう頑張ります。



企業向け「介護に関する勉強会」が必要な理由

経済産業省によると、2030年には家族を介護する833万人のうち、約4割（約318万人）が仕事をしながら家族の介護に従事する（「ビジネスケアラー」「ワーキングケアラー」などと呼称）と言われ、仕事と介護の両立が課題となっています。また、これらを起因とする損失額は中小企業では年間773万円と推測され、企業にとっても大きな課題となっています。

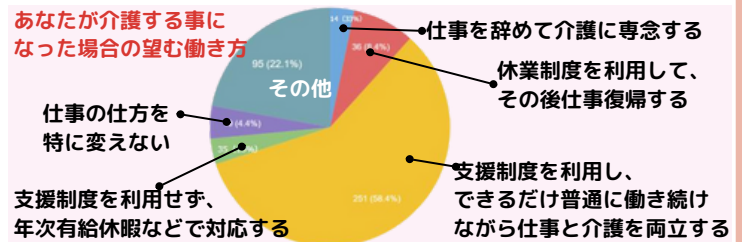
当組合では、普段馴染みの少ない介護に関する制度やサービス等の情報について「知る」「備える」ことで、いざ直面した場合にも慌てる事なく対処できるよう勉強会を開催しています。従業員、企業ともに備えることが重要ですね（記事：大城）



3.4月開催、企業向け「介護に関する勉強会」の様子

2023年度 実態把握調査アンケート結果から

この1年間の企業様対象「実態把握調査アンケート（従業員の仕事と介護の両立に関するアンケート）」の結果を共有します。全体（5社）で355件の回答、「介護経験がある」と回答した人は134名（37.7%）。その中で現在も介護を行っている従業員は60名（45.1%）となりました。介護が必要になった際の働き方については「支援制度を利用し普通に働き続け両立する」が58.4%（251名）、「休業制度を利用してその後仕事復帰する」が8.4%（36名）で両方を合わせると66.8%（287名）となり「仕事と介護の両立」を望む働き方は高い結果となりました。



両立に対しての環境整備等、早期の見直しを行う事で従業員の不安が払拭でき、安心して働ける可能性が高まります。両立支援の取り組みから数年経過後、再度同調査を実施するなど前回の調査結果と比較できます。是非ご活用下さい。（記事：松川）

仕事・介護の両立を考える企業

沖縄県の企業様では介護に関して、「総務人事担当者に経験者がいる」「代表や役員が経験者」「ワークライフバランス取得企業」が仕事と介護の両立支援に関心を寄せられ、取り組みに力を入れています。

- 1.労働者の心身の負担
- 2.介護離職の防止
- 3.人材不足のリスクマネジメント
- 4.経済全体への影響

上記4つの理由から、企業が仕事と介護を両立できる環境を整備する事は、従業員のキャリア継続だけでなく、経営面からも見ても人的資本経営の実現や人材不足に対するリスクマネジメントとして有効とされます。（記事：中山）



「トモニマーク」

「トモニマーク」ご存じですか？

厚生労働省が作成した「仕事と介護を両立できる職場環境」の整備促進のためのシンボルマークの愛称です。介護離職を防止するため、仕事と介護を両立できる職場環境の整備に取り組む企業が使用することができます。組合とご契約いただいている企業様は取得対象企業となっています。詳しくは組合まで◎

介護ワンポイントアドバイス④

「それってワガママ？」

先日、ある高齢者からゆっくりお話しを聴く機会がありました。その方は90歳、男性。離島で1人暮らしをしていました。お話を聴くと、妻には先立たれ5人いる子ども達は皆、沖縄本島で暮らしているとのこと。男性は色々な話をしてくださいました...

『島で最初に〇〇を始めた』
 『家族を養うために必死になって働いた』
 『力自慢だった』
 話は続きます...
 最近、本島にいる息子さんに
 『一人心配だから島を離れて一緒に暮らそう』
 と言われ直ぐに断ったそうです。私が断った理由を尋ねると、
 『元気だから生活できている、島を離れる気はない』
 と穏やかな口調で返してくれました。



いかがですか？子の想いと親の想い、それぞれの優先順位が異なることもあります。思い切って親の目線に立ってみると、違う景色が見えることも...（記事：中松）